

平成 2 7 年度  
事業報告書

〔 自 平成 2 7 年 4 月 1 日  
至 平成 2 8 年 3 月 3 1 日 〕

公益財団法人 大山健康財団

公益財団法人 大山健康財団  
平成 27 年度事業報告書

〔 自 平成 27 年 4 月 1 日  
至 平成 28 年 3 月 31 日 〕

I. 学術研究助成事業

本財団定款第 4 条第 1 項に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満 50 歳以下の者を対象とする研究助成金で、平成 27 年度（第 42 回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記の通りである。

- ・ 公募開始：平成 27 年 10 月 1 日 応募要領・申請書 195 通発信  
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに応募要項を掲載した。
- ・ 公募締切：平成 27 年 11 月 30 日 応募数 72 件  
(応募内訳 細菌学 50、寄生虫学 22)
- ・ 選考委員会：平成 28 年 1 月 26 日
- ・ 理事会決定：平成 28 年 2 月 4 日

【第 42 回学術研究助成金受贈者】(敬称略)

氏 名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
おかだ てつや 岡田 哲也	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 生体高分子機能学研究室 非常勤研究員	アフリカ睡眠病の病原 原虫における分化メカ ニズム解明に向けたラ イブイメージング法の 開発と応用	100万	寄生虫学
ささき ひらく 佐々木 啓	順天堂大学スポーツ健康 科学部健康学科 助教	細胞性粘菌由来の生物 活性物質 DIF をリード 化合物とした新規抗菌 剤の開発	100万	細菌学
すぎもと ちえ 杉本 智恵	北海道大学大学院 医学研究科衛生学・細胞 予防医学分野 助教	自然免疫型 T 細胞によ る細菌感染制御機構の 解析	100万	細菌学
みいち みたむら ふみか 見市(三田村) 文香	佐賀大学医学部分子生命 科学講座免疫学分野 助教	赤痢アメーバ“シスト形 成”を標的とする新規薬 剤の探索	100万	寄生虫学
みずたに たつあき 水谷 龍明	京都大学ウイルス研究所 細胞制御研究分野 特定助教	結核菌許容性 M2 マク ロファージの生存維持 因子の同定から分子治 療開発へ	100万	細菌学

みなみ 南	しゅうじろう 修 司郎	東京医療センター臨床研究 センター聴覚平衡覚研究部 部員	中耳常在菌叢データベ ースの構築と、難治性 慢性中耳炎におけるメ タゲノム解析による新 規治療開発	100万	細菌学
やまもと 山本	まさひろ 雅 裕	大阪大学微生物病研究所 教授	トキソプラズマ原虫の 濃縮顆粒から分泌され るエフェクター分子に よる宿主免疫ハイジャ ック機構の解明	100万	寄生虫学
よつ 四津	りえ 里英	国立駿河療養所皮膚科 医師	コートジボワール共和 国 Adzopé 地域におけ る学童および伝統医療 受診患者を対象とした ハンセン病とブルーリ 潰瘍診断に関する疫学 的調査	100万	細菌学 (継続)
				800万	

## II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第2項及び大山健康財団賞・大山激励賞選考規程第2条第1項・2項に基づき、平成27年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に稲田頼太郎氏、大山激励賞に河野朋子氏をそれぞれ受賞者に決定した。

平成28年3月17日（木）に霞ヶ関東海倶楽部において贈呈式を開催し大山健康財団賞受賞者には賞状・記念メダル・副賞100万円を、大山激励賞受賞者には賞状・副賞50万円を贈呈した。

- ・公募開始：平成27年10月1日 推薦依頼24通発送  
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに推薦依頼を掲載した。
- ・公募締切：平成27年11月30日 推薦数：大山健康財団賞：6件・大山激励賞：2件
- ・選考委員会：平成28年2月3日
- ・理事会決定：平成28年2月4日

### ◇平成27年度（第42回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○稲田 頼太郎 いなだ よりたろう 特定非営利活動法人イルファアー 理事長  
獣医師 HIV(AIDS)専門家 農学博士（満69歳）

#### <功労の内容>

研究者として就職されたアメリカ・コロンビア大学附属病院で1980年に当時まだ原因も治療法も分からなかった病気（後にAIDSと呼ばれる）に出会い、次々と命を落としていく患者を目の前にしてこの病気と闘うことを決意された。

1980年代後半から1990年代前半にかけてニューヨーク在住日本人感染者、患者のケアに

あたられ、1993年に日本でエイズ患者やHIV感染者の診療にあたる医師や看護師を養成するためにマイケル・ラング医師（感染症学研究部長）とともに「イナダーラングエイズ研究財団：ILFAR」を設立され、以後、100名以上に及ぶエイズ関連医療従事者の研修が行われた。

2000年7月にはケニア共和国ナイロビ市にあるスラム地区（プムワニ村）においてエイズ医療体制構築のため、地域住民対象の年2回の無料診療を、その支持者と共に始められ、感染者、患者、地域住民の教育を中心に感染予防のプログラムを2016年2月までに24回にわたり行われ、HIV感染者、患者を含む5万人以上の地域住民を診てこられた。2014年末には、日-ケニア国交50年を記念し、長年日本とケニアとの相互理解および友好の親善に寄与された功績で大使館表彰を受けられている。

また、自費で1年のうち2ヵ月間の無料診療支援を始められ、10年間続けられた後、定年目前でアメリカの病院を退職され、ケニアに完全移住されて2010年に診療所をオープン、無料で診療支援を行っておられる。2006年、ケニアにおいても無料の抗エイズ薬の入手が可能になり、患者、感染者への治療情報の提供、服薬指導などにも尽力されている。

#### ◇平成27年度大山激励賞受賞者（敬称略）

○河野 朋子<sup>このともこ</sup> 特定非営利活動法人 ジャパンハート ミャンマー医療事業統括責任者  
看護師、助産師、保健師（満40歳）

#### < 功労の内容 >

2008年5月から8月までミャンマー南部を襲ったサイクロン「ナルギス」の緊急救援活動に参加されたのはじめ、2009年4月から現在に至るまでミャンマーでの医療活動の傍ら、サイクロン孤児支援事業（2009年、2010年）、視覚障がい者自立支援事業（2009年）の立ち上げ、子ども養育施設『Dream Train』開設準備（2010年）、現地医療者育成事業（2010年～現在）、東日本大震災支援事業（2013年）、ミャンマー子ども心臓病サポート事業（2014年～）、ミャンマー大洪水緊急救援活動（2015年）など数多くの医療協力に従事された他、これまでに30人以上のミャンマー人看護師を育成されるなど、ミャンマーにおける医療協力に多大な貢献をされている。

### Ⅲ. 学術集会支援事業

本財団定款第4条第3項に基づき、平成27年6月11日開催の学術集会支援審査委員会及び同日開催の理事会において決定した下記の事業に支援した。

1. 第29回日本バイオフィルム学会学術集会に30万円供与した。同事務局より以下の報告があった。

開催期間：平成27年7月10日から平成27年7月11日

開催場所：ホテル竹島（愛知県蒲郡市竹島海岸）

開催責任者：吉村文信先生（愛知学院大学歯学部微生物学講座 教授）

#### 【開催実施内容】

従来、研究会として一日で行っていた本学術集会は、今年度は、初めての学会となり2日間に渡って開催された。会期中は、国内外の研究者が109人集い、一般演題が35演題、特別講演が2演題の計37演題の発表があり、活発な討論が行われた。初日終了後、情報交換会を開催し、異なる研究施設に所属する研究者の交流を深めることに努めた。また、二日目は、午前8時半から午後2時まで大きな休憩も入れず、昼食をとりながらのランチセッションも行い、十分に深い学術の討論が行われた。

2. 第49回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会に30万円供与した。事務局より以下の報告があった。

開催期間：平成28年1月29日（金）、1月30日（土）

開催地：仙台ガーデンパレス（仙台市宮城野区榴岡4-1-5）

学会会長：磯貝恵美子先生（東北大学大学院農学研究科動物微生物学分野 教授）

参加人数：53名

#### 【開催概要・成果】

2016年（平成28年）1月29日（金）、30日（土）の両日、仙台ガーデンパレスにおいて、第49回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会を開催した。今回の総会では、「困難に立ち向かう」をテーマに掲げ、特別講演および2つシンポジウム、さらに一般演題より構成した。基礎から臨床、異分野融合、東日本大震災からの復興に向けての取り組みなど幅広い分野からの発表があり、活発な討論が繰り広げられた。大山健康財団のご援助により本合同学会を円滑に運営できたこと心より厚く御礼申し上げる。

#### IV. 年報作成

平成25年度第40回学術研究助成金受贈者の業績報告集（年報No.40）を作成した。

#### V. 寄附金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第38次派遣団に寄附金30万円を供与した。同研究会より下記の報告があった。

派遣期間：平成27年7月18日～8月30日

訪問国：ブラジル・ペルー

団長：福永興彦先生（慶應義塾大学医学部内科学教室 呼吸器内科 専任講師）

#### 【活動内容】

本年度の第38次派遣団は、本研究会の設立趣旨である「医の原点の実体験」、及び「医学、医療を通じた国際交流」を基本指針とし、主要テーマとして「伝統医療を通じた地域医療の理解と理想的医療体系の探求」、「継続的な現地貢献」を目標として設定した。

##### 1. 「医の原点」の実体験

- ・アマゾナス州マナウスにおいて、アマゾン川流域の無医村をめぐる巡回診療船に同乗し、医療活動を実施した。
- ・ペルーの伝統医（グランデーロ）を訪問し、医療の歴史と技術を学んだ。
- ・EDS(Expedicionários Da Saúde)という現地のプロジェクトに参加することで先住民族（インディオ）であるヤノマミ族の村を訪問し、診療及び健康調査、検査・手術の見学を行った。

##### 2. 医学医療を通じた国際交流

- ・現地医学部や医療施設を訪問し、実習を行った。
- ・現地医学生と「第28回日伯医学生会議」を開催し、ポルトガル語で医学的話題を発表し討議を行った。
- ・現地において、本医学部教員である団長が日本における最新の医学的知見を講演し、現地医療従事者と討論を行った。
- ・世界を舞台に活躍されている三田会の先輩方を訪問した。

### 3. 伝統医療を通じた地域医療の理解と理想的医療体系の探求

- ・シャーマンの行う伝統医療を学び、その知識や技術について医学的観点から考察した。
- ・ブラジルの先住民族（インディオ）であるヤノマミを訪問し、現地医療の実際と、先住民の医療に対する認識を学んだ。

### 4. 継続的な現地貢献

- ・アマゾン川巡回診療船に同乗し、医療開発途上地域の現状把握及び啓発活動を行うことで、現地への医療支援の一助となるよう努めた。
- ・昨年度に引き続き、EDS(Expedicionários Da Saúde)という現地のプロジェクトに参加し、先住民族（インディオ）であるヤノマミ族の村を訪問し、健康調査及び診療活動を行った。

## VI. 贈呈式及び祝賀会

平成27年度学術研究助成金および大山健康財団賞・大山激励賞の贈呈式・祝賀会は下記の通り行った。

- ・開催日時 平成28年3月17日(木) 午前11時30分～午後2時30分
- ・開催場所 霞が関ビル35階 霞ヶ関東海倶楽部

#### ◇贈呈式（敬称略）

- ・学術研究助成金受贈者代表挨拶 杉本智恵
- ・大山健康財団賞受賞者挨拶 稲田頼太郎
- ・大山激励賞受賞者挨拶 河野朋子
- ・記念講演 稲田頼太郎

◇祝賀会：贈呈式終了後に開催

## VII. 総務事項

『理事会』（平成27年度）

#### ◇第7回理事会

（平成27年5月21日）出席者 理事4名 監事2名

1. 「平成26年度事業報告書（案）、決算報告書（案）」の承認  
※平成26年度事業報告書（案）決算報告書（案）に対する監事の監査報告
2. 「評議員会へ提出する理事・監事候補者」の推薦
3. 「学術研究助成金選考委員」の選任
4. 「顕彰者選考委員」の選任
5. 「学術集会支援審査委員」の選任
6. 「第5回評議員会（定時評議員会）の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
7. その他報告事項

#### ◇第8回理事会

（平成27年6月11日）出席者 理事6名 監事2名

1. 「平成27年度学術集会支援事業における支援対象学術集会」の承認
2. 「代表理事（理事長）」の選定：代表理事（理事長）に竹内勤氏を選定
3. 「執行理事（専務理事・常務理事）」の選定：専務理事に神谷茂氏、常務理事に植田常昭氏を選定
4. その他 報告事項.

#### ◇第9回理事会

(平成28年2月4日) 出席者 理事5名 監事2名

1. 「第42回学術研究助成金受贈者」の決定
2. 「第42回大山健康財団賞・平成27年度大山激励賞受賞者」の決定
3. 「平成28年度事業計画書(案)及び正味財産増減予算書(案)」の承認
4. 「マイナンバー制度関連規程(案)等」の承認
5. 「第6回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
6. 「平成28年度会議及び行事予定(案)」の承認
7. 「委員会謝金規程(改正案)」の承認
8. その他、報告事項

『評議員会』(平成27年度)

#### ◇第5回評議員会(定時評議員会)

(平成27年6月11日) 出席評議員8名 理事6名 監事2名

1. 「平成26年度事業報告書(案)及び決算報告書(案)」の承認  
※平成26年度事業報告書(案)・決算報告書(案)に対する監事の監査報告
2. 「理事・監事」の選任
3. その他、報告事項

#### ◇第6回評議員会

(平成28年3月17日) 出席評議員5名 理事5名 監事2名

1. 「平成28年度事業計画書(案)及び正味財産増減予算書(案)」の承認
2. その他、報告事項

◇本財団評議員の高田正昭先生が平成28年2月3日に急逝された。

#### VIII. ホームページの開設

本財団の認知度を上げる目的と、本財団の公募・情報開示等を適時適切に行うために、本財団のホームページを平成27年10月1日付で開設した。

以上

**[附属明細書]**

平成27年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年5月

公益財団法人 大山健康財団